

区民
かわ
ら
版

「山科区2万人まち美化作戦」が実施されました

6月7日、山科区自治連合会連絡協議会の主催により、「山科区2万人まち美化作戦」が実施されました。この取り組みは、平成15年度から、毎年、環境月間である6月の第一日曜日に実施されています。今年度も、各学区自治連合会、各種団体、企業などから、約2万人もの多くの皆さんが参加されました。

区民の皆さんが日ごろから熱心に美化活動に取り組まれている中、この取り組みにより、道路や河川、公園などまちの至るところがより一層美しくなりました。

これからも、私たちの山科区が、水と緑に彩られた美しいまちであり続けるために、



また地球環境にやさしい環境先進区を目指していくために、みんなで美化活動や資源の再使用などに取り組みましょう。

問合せ先 区まちづくり推進課(☎592-3088)



山科区民ソフトボール大会

優勝 山階南体振チーム
準優勝 百々体振チーム
三位 音羽川体振チーム
勸修体振チーム

5月31日、第33回山科区民ソフトボール大会が勸修寺公園で開催されました。

各学区から13チームが参加する中、白熱した戦いが繰り広げられました。打線が炸裂し、得点を重ねた山階南体振チームが、6年連続優勝という快挙を成し遂げました。

山階南体振チームは、7月26日に岩倉東グラウンドで行われる京都市大会に山科区代表として出場されます。

京都・山科・清水焼団地

第35回

陶器まつり

夏の風物詩である「陶器まつり」は、今年で35回目を迎えます。京都の伝統産業である京焼・清水焼が豊富に揃い、高品質の陶芸品が格安価格で購入できます。

日時 7月24日(金)～26日(日)

24日、25日は午前10時～午後9時、26日は午前10時～午後7時 雨天決行、入場無料

行きも手ぶら、帰りも手ぶらで!

会場内には、清水焼団地協同組合が送料を一部負担する宅配便コーナーを設置しています。

臨時直行便(京阪バス)が出ます

JR京都駅前から臨時直行便(五条京阪を経由、所要時間約20分の京阪バス)が運行。京都観光一日乗車券【山科・醍醐拡大版】が使えます。臨時直行便でお越しの方には、3枚でお帰りの京阪バスが無料となるサービス補助券を2枚進呈。

また、地下鉄東西線「山科駅」からは、京阪バス29系統大宅行き「清水焼団地バス停」下車すぐです。



主なイベント

- ろくろ体験、どろんこひろば(いずれも無料)
- 京都橘大学との産学共同企画によるお楽しみ夢空間
- お茶席コーナー(抹茶、煎茶と菓子)
- 大石内蔵助の愛用の品特別展示
- 大石磯子演奏
時間 7月25日(土)午後8時～

問合せ先 清水焼団地協同組合事務局(☎581-6188)

山科区民バレーボールカーニバル

6月21日、第33回山科区民バレーボールカーニバルが、山階南小学校と百々小学校で開催されました。



区内13学区から22チームが参加する中、懸命にボールを追ひ、長いラリーが続くなど、日ごろの練習の成果を発揮した白熱した戦いが行われました。

接戦の結果、優秀チームとなったのは、次の7チームです。

優秀チーム

山階チーム 鏡山Aチーム
鏡山Bチーム 音羽チーム
百々Bチーム 小野Bチーム
音羽川Aチーム

問合せ先 区まちづくり推進課(☎592-3088)

見上げてみよう 山科の空

—花山天文台から—
第3回「皆既日食」

今年7月22日に皆既日食があります。これは月によって太陽が隠される天体現象で、普段は明るく輝き人の目では直視できない太陽が、この日は月の陰に入って暗くなり、その周りに淡いコロナが見える素晴らしい天体ショーです。

今回の日食では、中国上海辺りから日本の奄美大島や屋久島などの南西諸島を経て太平洋に至る地域で皆既日食を見ることが出来ます。天文台からは、上海、南西諸島、そして船で太平洋上の晴天予想点に行くチームにそれぞれ分かれ、観測します。

図は、1991年にメキシコで私たちが観測したコロナの写真です。太陽のコロナの筋状やヘルメット状のものなど様々な形が見えてい



ます。今回の観測の画像も天文台のホームページなどを通じて紹介する予定です。お楽しみに。

私たちの住む地域では太陽の一部分が月によって隠される部分日食を見ることが出来ます。山科では、日本時間の午前9時47分ごろから太陽が欠け始め、月の影が段々と大きくなり、午前11時5分には影が最大となります。この時、太陽はほぼ8割まで隠され、太陽の輝く部分が三日月のような形になります。その後、月の影が太陽から抜け、午後0時25分ごろに日食は終わります。

この部分日食ですが、太陽を直接目で見ることは目を傷めますので絶対に避けてください。必ず太陽の光を弱める写真フィルムの真っ黒になった部分や、色の濃い下敷きを何枚か重ねたものを通して観てください。

太陽が欠けている様子をもっと簡単に安全に見る方法があります。それは、太陽光の木漏れ日から観察する方法です。晴れた日に木陰で地面をよく観察すると、小さな丸い太陽像がたくさん見えます。これは木の葉の重なりで通る太陽光が通過してできるもので、ちょうどピンホールカメラのように太陽像が地面に投影されているのです。部分日食では、この木漏れ日で出来る小さな太陽像がすべて三日月形になり、太陽が欠けている様子がよく分りますのでお試しください。

ところで、今回の日食はメキシコ日食から「18年と11日」経っています。この年月が経つと同じような日食がまた起こります。日食

はこのように繰り返して起こり、これはサロス周期と呼ばれています。日食にはいくつかのグループがあり、その一つのグループ内にある日食がサロス周期間隔で繰り返して起こっています。

驚くべきことに、このサロス周期は古代オリエントの時代から知られていました。現在では地球と月の運動から周期は正確に計算されているのですが、古代の人々はどういうにしてそれを見つけたのでしょうか。まだ、月が地球の周りを、地球が太陽の周りを回っていることは知られていない時代に、天体の動きや周期を一体どのようにして把握できたのでしょうか。とても不思議です。

古代の人々の考えにも想いを馳せながら、数年に一度の貴重な天体ショーをお楽しみください。山科の空が晴れることを祈っています。

京都大学大学院理学研究科
附属花山天文台

北井礼三郎准教授執筆